

DH ・ 技術要素 ・ Omeka

Omeka入門

デジタル展示を公開する

DH入門 / 技術要素シリーズ

中村

※実験的な取り組みです（構成・図・AI音声合成を含む）。内容をご確認・ご注意のうえご利用ください

この動画について

- ✓ **クリエイティブ・コモンズ**のオープン教材を参照し、独自に構成した解説です
- ✓ スライド・図は新規作成、ナレーションは**本人声のAI音声合成**
- ✓ これは**実験的な取り組み**です。内容は**ご確認・ご注意のうえ**ご利用ください
- ✓ 誤りに気づいたら概要欄からご指摘ください。出典・ライセンスは末尾と概要欄に記載しています

この回のゴール

デジタル資料を「集めて・見せる」土台をつかむ

- ✓ Omeka が**デジタル資料を集めて見せる公開プラットフォーム**だと説明できる
- ✓ **アイテム・メディア・コレクション・メタデータ**という基本の単位を説明できる
- ✓ **展示 (Exhibit)** でアイテムを物語として見せる考え方をつかむ
- ✓ **Omeka Classic と Omeka S** の違いの見当がつく

前提知識は特にありません。デジタルアーカイブを「作る側」の視点で見ていきます。

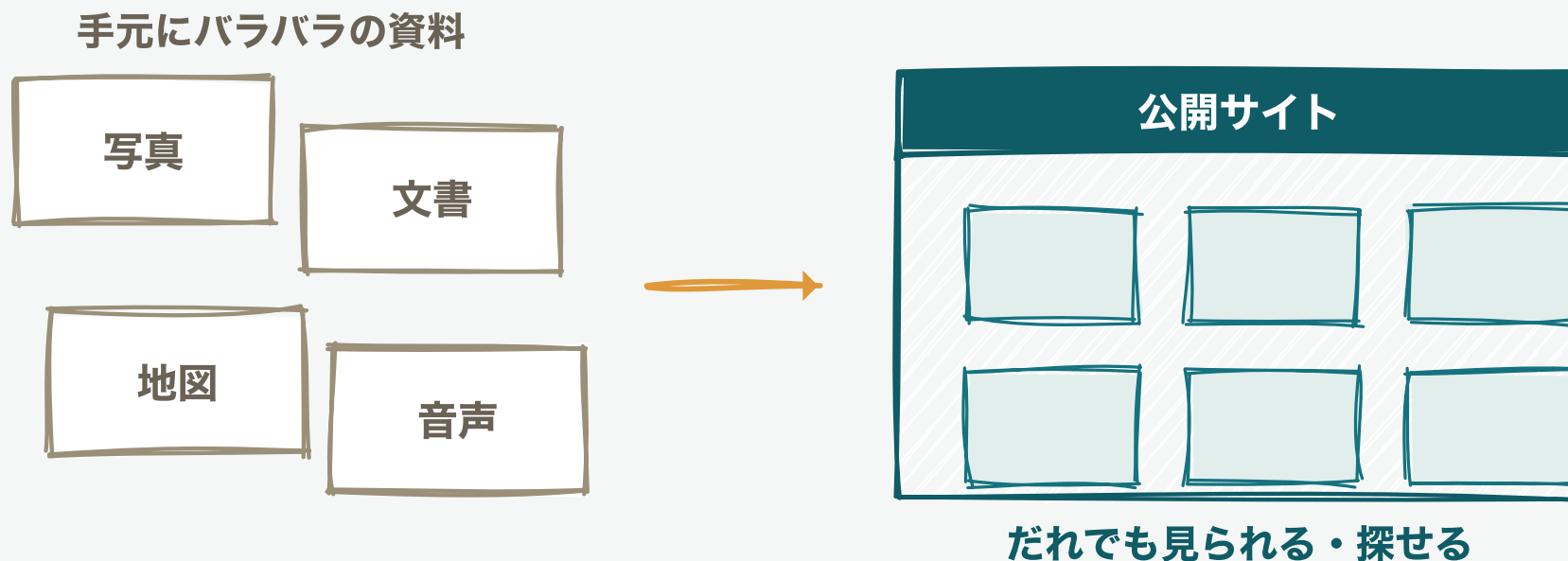
今日の流れ

- ✓ デジタル展示を、どう作る？
- ✓ Omeka とは
- ✓ 中身の単位 — アイテム・コレクション・メタデータ
- ✓ 見せる — 展示 (Exhibit)
- ✓ 二つの Omeka — Classic と S
- ✓ 始め方・学ぶには

デジタル展示を、どう作る？

まずは「集めて・見せる」という課題から

集めて・見せて・探せる形にしたい



手元の資料を、ウェブで**見せて・探せる**形にするのは、ふつう手間がかかる

その「共通の土台」が Omeka

一から作ろうとすると、保存・一覧・検索・ページ作りを、ぜんぶ自分で用意することになります。

- ✓ そこを引き受けてくれる**共通の土台**が、いくつもある
- ✓ その代表的な一つが、**Omeka**（オメカ）という公開プラットフォーム
- ✓ プログラミングを書かなくても、資料を**集めて・見せられる**

Omeka とは

無料・オープンソースの公開プラットフォーム

Omeka = 集めて・見せる土台



無料・オープンソース。図書館・文書館・博物館など（GLAM）で広く使われている

ここまで

- ✓ 資料を「集めて・見せて・探せる」形にするのは、本来**手間がかかる**
- ✓ その作業を引き受ける**共通の土台**が Omeka
- ✓ 無料・オープンソースで、**コードを書かずに**公開サイトを作れる

では、その「中身」は、どんな単位でできているのでしょうか。

中身の単位 — アイテム

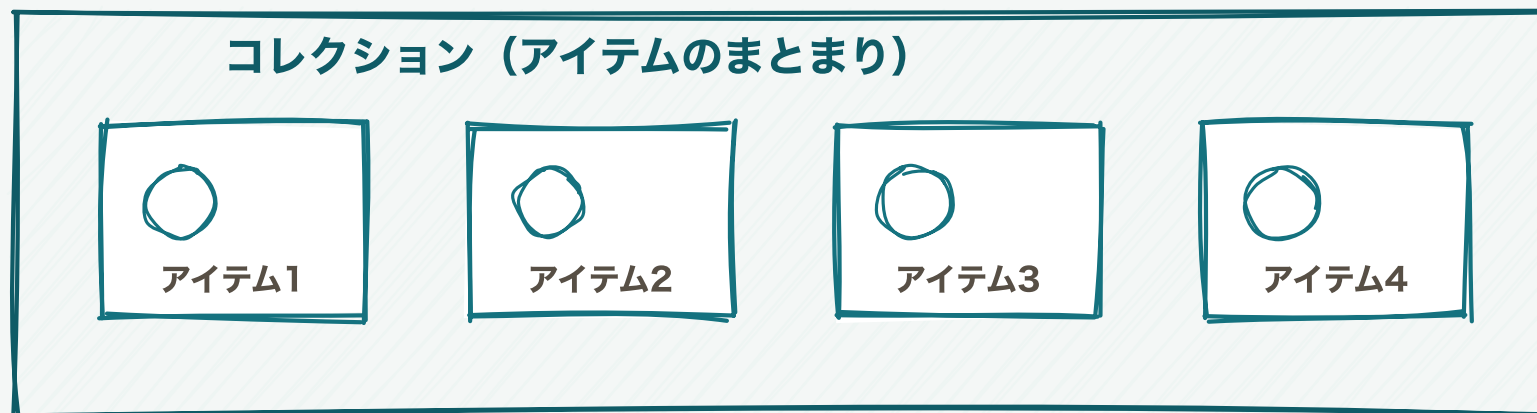
資料1点をどう表すか

アイテム = メディア + メタデータ



アイテム = 資料1点。 **メディア** (画像・PDF・音声など) と **メタデータ** (説明) を持つ

コレクション = アイテムのまとめり



テーマでまとめると、たどりやすい (S では Item Set)

テーマでまとめると、たどりやすい。Omeka S では **Item Set** と呼ぶ

メタデータ = 資料の「説明書き」

アイテムが何なのかを説明する情報が、メタデータです。

- ✓ タイトル・作成者・日付・主題……といった**項目ごとの説明**
- ✓ きちんと付けておくと、**一覧・検索・絞り込み**ができる
- ✓ 書き方がバラバラだと、せっかく集めても**探せない**

そこで「みんなで同じ枠を使う」という発想が出てきます。

Dublin Core = 共通のメタデータ語彙

Dublin Core (共通のメタデータ語彙)

Title (タイトル) : 本町通りの風景

Creator (作成者) : 山田写真館

Date (日付) : 1925年ごろ

Subject (主題) : 町並み / 商店街

Type (種別) : 写真

みんなが同じ枠で書く → 揃って、探せる

Omeka は標準で **Dublin Core** (ダブリンコア) を採用。同じ枠で書けば、揃って探せる

ここまで

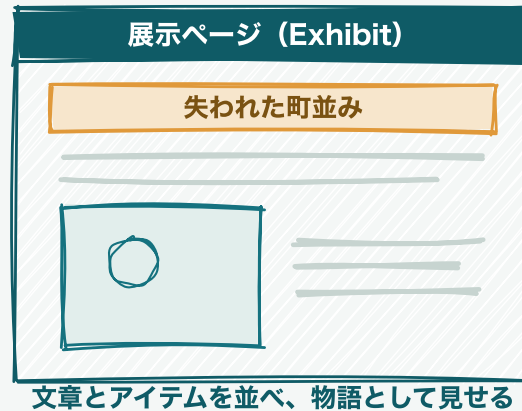
- ✓ **アイテム** = 資料1点。メディア（実体）とメタデータ（説明）を持つ
- ✓ **コレクション** = アイテムのまとめ（S では Item Set）
- ✓ メタデータは **Dublin Core** という共通の枠で書くと、揃って探せる

集めて・整理する道具がそろいました。つぎは「見せる」番です。

見せる — 展示 (Exhibit)

集めたアイテムを、物語として

展示 = アイテムを並べたページ



展示 (Exhibit) = 集めたアイテムに文章を添え、テーマに沿って見せるページ

ブロックを置いて組み立てる

展示ページは、部品（ブロック）を積み重ねて作ります。

- ✓ 見出し・文章・画像といった**ブロック**を、上から並べる
- ✓ 各ブロックから、登録済みの**アイテムを呼び出して**配置する
- ✓ **コードを書かずに**、画面の操作だけで組み立てられる

同じアイテムを、別の展示でも使い回せます（資料と見せ方を分けて持てる）。

二つの Omeka — Classic と S

用途に応じた二つの系統

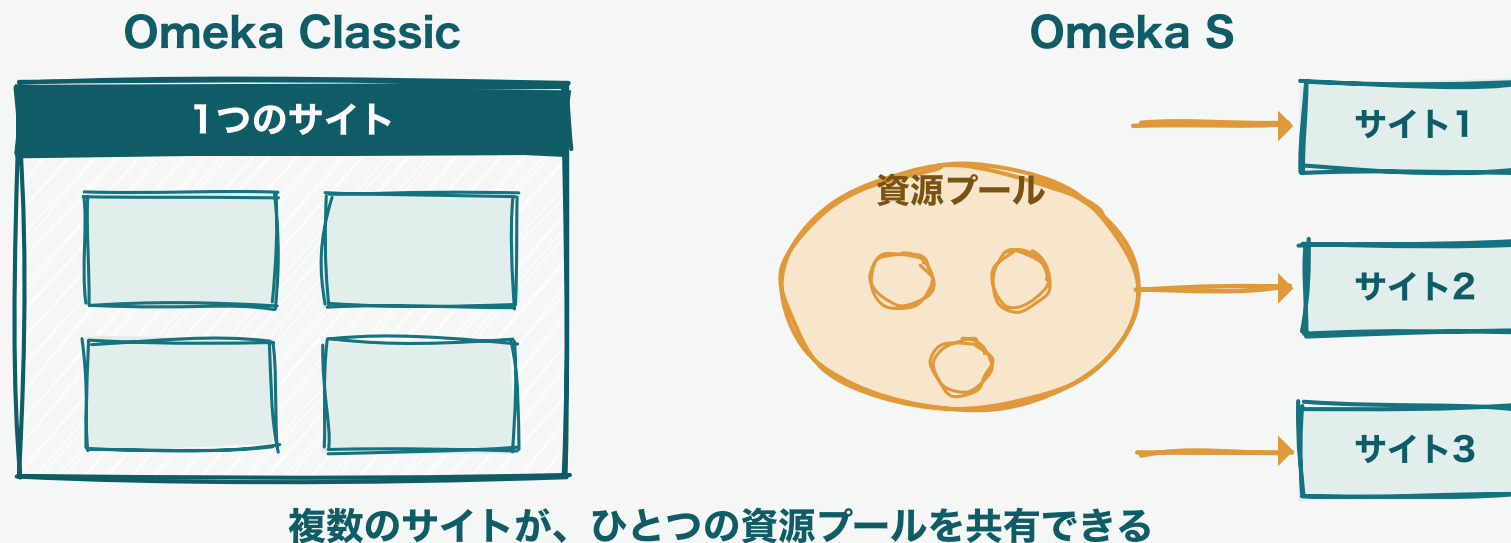
Omeka Classic — 個人・教育向け

最初から広く使われてきた、定番のシステムです。

- ✓ **一つのサイト**を手軽に立ち上げるのに向く
- ✓ 機能は**プラグイン**で足す（展示づくりも追加機能で）
- ✓ **Omeka.net** なら、自分でサーバを用意せず登録だけで試せる

授業・小さなプロジェクト・個人の公開に向けた入り口です。

Omeka S — 複数サイトを束ねる



Omeka S は、**一つの資源プール**から**複数のサイト**を作れる。機関での運用向き

Omeka S は Linked Open Data 寄り



資料を**共通語彙のプロパティ**で記述し、**外部データへつなぐ** (前回のRDF・LODの発想)

どちらを選ぶ？（目安）

優劣ではなく、用途で選ぶのがよさそうです。

- ✓ まず一つのサイトを手早く、授業や個人で → **Classic** が入りやすい
- ✓ 複数サイトを束ね、外部データとつなぎたい → **S** が向く
- ✓ 迷ったら、**小さく試して**から決めるのでも十分

機能は版やモジュールで変わります。最新は公式ドキュメントで確かめてください。

ここまで

- ✓ **展示 (Exhibit)** = アイテムに文章を添え、ブロックで組むページ
- ✓ **Classic** = 一つのサイトを手軽に (個人・教育・Omeka.net)
- ✓ **S** = 資源プールから複数サイト、**Linked Open Data** 寄り

道具立てはここまで。最後に「使うときの心構え」と始め方を。



考えてみよう

あなたの手元にある資料を展示するとしたら……

- ✓ どんな**アイテム**を集めますか？（写真・文書・地図……）
- ✓ どんな**メタデータ**を付けますか？（何で探したい？）

よろしければ、ここで一度動画を止めて、思い浮かべてみてください。

並べ方にも「解釈」が入る

Omeka は道具ですが、使い方には判断がともないます。

- ✓ どの資料を選び、どんな**メタデータ**を付けるか
- ✓ どんな順序・文脈で**並べて見せる**か
- ✓ その選択が、見る人の**理解の仕方**を形づくる

テキストにタグを付け、データを線でつなぐ営みと同じく、これも解釈をともなう仕事です。

始め方

① まず試す

Omeka.net で
ホスティング型・登録だけ

② 自分で運用

自分のサーバに
オープンソースを導入

③ 体系的に学ぶ

Programming
Historian のレッスン

まず **Omeka.net** で触れてみる。学ぶなら **Programming Historian**、詳細は公式ドキュメント

まとめ

- ✓ Omeka = 資料を**集めて・見せる**、無料・オープンソースの公開プラットフォーム
- ✓ 中身は**アイテム（メディア+メタデータ）**と**コレクション**。メタデータは Dublin Core
- ✓ **展示（Exhibit）**で、アイテムを物語として見せる
- ✓ **Classic**は個人・教育向け、**S**は複数サイト + **LOD**寄り

タグを付ける TEI、線でつなぐ RDF、その先で「集めて見せる」のが Omeka。地続きです

出典・ライセンス

本動画は、以下のオープンライセンス教材を参照して作成しました。

- ✓ Up and Running with Omeka.net / M. Posner (Programming Historian) — CC BY 4.0
- ✓ Creating an Omeka Exhibit / M. Posner, M. R. Brett (Programming Historian) — CC BY 4.0

Omeka 公式 (omeka.org) は事実確認に使用。スライド・図は中村による新規作成（概念を参照し、表現は新たに構成）。

ご清聴ありがとうございました